

生る

真宗大谷派 存明寺通信

NO.179

2017年（仏暦2548年）7月8日発行

お寺を あなたの居場所に

人は皆、何かを抱えながら、今を生きている。
それは例えば、悩み・迷い・濁り・悲しみ……。
皆、何らかの課題を背負いながら、今を生きている。
だから、人は皆、そんな仲間同士……。

親鸞しんらん聖人は、そんな私たちを「われら」と呼び親しんだ。
共に深くて広い世界をこそ、生きていこう、と。
その呼びかけを、しっかりと聞いていく場こそがお寺。
だからお寺を、一人ひとりの居場所いばしょにしてほしい。

← 毎月一回開かれる「子ども食堂」



← 初めての「おとな食堂」を開催。



↓ 毎月行われている「しんらん交流ひろば★樹心の会」。人は皆、何かを抱えながら、今を生きている。



人生の宿題

— 健太郎くんの見た

— 地獄と極楽 —

学校の宿題なんて、本当はちつぽけなもの。だって、いずれなくなってしまうから。もっと大きな宿題がある。それは、人生の宿題。君にも僕にもあなたにも、人生の宿題がある。では、物語のはじまり、はじまり。

その男の子の名前は健太郎くん。小学校5年生。とっても元気がいい。でも、勉強は大嫌い。

「ただいま〜」

といって学校から走って帰ってくると、

ランドセルをポーンと放り投げ、ゲームのいっぱい詰まったバッグを持って、「行ってきま〜す」

と元気よく家を飛び出していきました。その時です。自動車！ 急ブレーキ！

「キキキキキッ〜」

気がつくとも健太郎くん、暗〜い闇の中、白〜い道の上をひとりトロボトボと歩いでいました。

やがて道がふたつに分かれるところにやってくる、真ん中にエンマさまがいました。

「やあ、君は健太郎くんだね。う〜ん、残念。君はまだ死んではない。

だから、ここから先には行くことができない。でもせつかくここまで来たのだから、ちよつとのぞいていくと、いいよ、左に行くくと地獄、右に行くくと極楽浄土。」

健太郎くん、最初に地獄をのぞいてみることにしました。地獄というと、怖い鬼がいるのではないかと思いましたが、その世界は私たちの世界とあまり変わりがありません。

人々の心の中には自分さえよければそれでいい、他人はどうなってもかまわない、という心がありました。

自分さえよければそれでいい。実は私たちの中にあるそういう心が、やがて地獄を作ります。私たちの中には地獄を作

永代経法要のご報告

▼去る5月3日、すべての亡き人をしてのぶ永代経法要が存明寺にて行われました。門徒感話（もんたくわんわ）は高橋昭彦さん（存明寺世話人・写真右）。その後、酒井義一（よしい）住職による法話が行われました。

▼法要では、多くのご法中（ほうちゅう）（ご住職）と共に、存明寺勤行衆（ごんぎょうしゅう）の皆さんも出仕しました。（写真中央）この企画は、二〇一二年の存明寺御遠忌（ごえんき）で、僧侶共に法要を創ることを願って実施したものです。好評につき、その後もお寺の主要な法要で行なわれています。

▼当日は大島花子（なご）さん（歌手・写真左）のコンサートが行われました。大島さんは歌手・坂本九（さかむら）さんの娘さん。心地よい語りど心揺さぶられる歌声が広がり、多くの人々を魅了（みりょう）しました。大勢のご参詣で、お寺が人であふれました。



ってしまいう心があるのです。これが健太郎くんの見た地獄という世界でした。

次に健太郎くん、極楽浄土をのぞいてみることにしました。さぞかし人々は仲良く平和に暮らしているのではないかと、思っているのぞいてみると、極楽浄土は地獄とたいして変わりがありません。

争い・けんか・不登校・いじめ・・・。同じように人々は心に闇を抱え、時に間違いを犯す。そんな世界でした。でも、ひとつだけ違うことがあったのです。その極楽浄土には大きな鏡がありました。全世界を映し出すような大きな鏡があったのです。人々は、その前で立ち止まり、自分の中に地獄を生み出す心があることをちゃんと知っていく、そういう生き方をしていたのです。

自分のことをちゃんと知っていく。これはとっても大切なことです。よい成績をとることよりも、よい学校に行くことよりも。なぜなら、どれだけよい子になれたとしても、みんな心の中に闇を持っているからです。

やがて健太郎くん、元の世界に帰る時がきました。エンマさまは最後にこう言いました。

「地獄・極楽という世界は、死んだ後に行く世界ではない。今この世の中にある世界なんだ。どうか、自分のことをちゃんと知っていく、そういう生き

方を大切にしたい。それが健太郎くんの人生の宿題。そう、人生の宿題だよ。」

人生の宿題。健太郎くん、勉強は嫌いです。宿題も嫌い。けれどもエンマさまが言った人生の宿題、大変心に残りました。何か大切だなあと思いました。自分のことをちゃんと知っていく。

ふつと気がつく健太郎くん、家の前で倒れていました。車はピタッと止まって、かすり傷ひとつありませんでした。あまりびつくりしたので、しばらく気を失っていたのです。これが健太郎くんの体験した不思議な物語です。



自分のことをちゃんと知っていく。そういう生き方を一人ひとりが見つけていく。これが私たちの人生の宿題です。私たちに闇があるのですから。

誰もが持っている人生の宿題。皆さん、この宿題をけっして忘れないように生きていきましょう。

おしまい、おしまい。

(任職：酒井義一)



お寺短信

▼こども会

毎月一回行われているこども会です。(写真右)今年で25年の歳月が流れました。新メンバーの新年生が6人、毎回「正信偈」を懸命に読んでいます。その姿に拍手！

▼こども食堂

毎月開催のこども食堂。野菜と愛情たっぷりのキーマカレーを提供中です。スタッフ10名を含め、毎回50〜70名の方々が参加されます。子どもたちの笑顔が光ります。(写真中央)

▼おとな食堂

「私も孤食、是非おとなのための食堂もやってほしい」との要望を受けて、初めてのおとな食堂を開催しました。一品持ち寄りのアルコールありの食堂。好評につき不定期ながら次回もいつか開催します。(写真左)

お寺のひろば 2017年(平成29年)

7月13日(木) 11時と13時 おぼん法要

お話：井上憲司さん・松本維邦さん・住職

8月26日(土) 2時〜 青年のつどい

内容：本堂での仏教行事・バーベキュー

9月9日(土) 2時〜 樹心の会

お話：坊守・子育てサロンスタッフ

9月23日(土) 11時と13時 秋のお彼岸法要

お話：武田紀美さん・岸木勉さん・住職

9月30日(土) 2時〜 グリーフケアのつどい

大切な方を亡くした人のつどい

10月7日(土) 2時〜 樹心の会

グリーフケアをテーマに開催します。

10月28日(土) 10時〜 おみがきのつどい

報恩講に向けておみがきと清掃奉仕のつどい。

11月2日2時〜・3日12時〜 報恩講法要

講師：堀秀隆氏・富士原きみえ氏・渡辺一真氏

11月11日(土) 2時〜 樹心の会

お話：藤井俊五総代・酒井義一住職

12月2日(土) 11時〜 仏弟子入門「帰敬式」

3年に一度の帰敬式。法名が授与されます。

12月9日(土) 2時〜 樹心の会

お話：加藤京子さん・岡田真さん・住職

12月16日(土) 2時〜 グリーフケアのつどい

1月1日(月) 10時〜 修正会

◎ぞんみようじこども会 月一回

◎ぞんみようじこども食堂 月一回

◎子育てサロンいちごのへや 月一回

青年のつどい

8月26日(土)

3時準備 4時開会

内容：本堂での仏教行事

(仏教讃歌・法話・紙芝居)

真夏のバーベキュー

(流しのギターリスト・花火)

会費：3,000円(おとな)

※事前申込制です。

存明寺までどうぞ。



秋のお彼岸法要

9月23日(土)

11時と13時(2回開催)

場所：存明寺本堂

内容：正信偈の法要・お話

お話：武田紀美さん・岸木勉さん

酒井義一住職

会費：無料

※毎回40分ほどの法要です。

※どうぞご自由にご参詣ください。

あとかき

▼街角の掲示板、6月の言葉から。

食えなければ死ぬ

食つても死ぬ

普段はそのことを見ないようにしているけれど、誰もが皆限りのあるいのちを生きている。いずれ死んでいくいのちを、一体どのように生きていくのか。それは誰もが抱えている、人類共通の課題。

▼そのような課題が、実は人を前へと歩ませていく。

▼課題を抱きながら、自由に人々が集まり、生きることを学ぶ場。お寺がそんな場になることを目指しています。

(住職・釋諦信)



東京都世田谷区北烏山4-15-1

真宗大谷派 存明寺

住職 酒井義一

TEL 03-3300-5057

FAX 03-3300-5880

E-mail : sakai@zomyoji.jp